

なぜ日本語ボランティアか JCTIC (マレーシア：コタキナバル)

～日本語講師のボランティアを満喫～

入澤サトミ (神奈川県相模原市)

滞在：第1回 2017年9月～第2回 2018年11月～

活動場所：マレーシア、コタキナバル (KK) JCTIC

2回も JCTIC で日本語講師のボランティアをしました。そのきっかけはひよんなことでしたが、思い切って取り組むことができ、QOL を高めることができました。WSC の日本語ボランティア活動に感謝です。



JCTIC の生徒さんと

1. 私の日本語講師との出会い

なぜ日本語講師になったのか、数名の先輩方にうかがいました。どなたもきっかけはリタイアの時、現役の延長線上に留まらず、次のステージとして日本語講師を選択、勉強して資格を取得しておられます。周到的な準備をしてまずは海外の学校で勤務、存分に堪能された後、年齢、体力を考慮して、少しペースダウン。スキルを活かしつつ余裕を持って取り組めるボランティアへと移行して行きます。無理のない流れです。

振り返って私とは言えば、日本語講師の経験は JCTIC での2回のみで、1回目は17年9月から、2回目は18年11月からです。

40代の時に相模原市の日本語ボランティア講座を受講したことがありました。何かの役に立てればと思ったのですが、時間帯が合わず、活動するまでに到りませんでした。その後67歳までフルタイムかつ残業ありの生活に追われ、ボランティアのボの字も思い出さずことなく過ごしました。

2. 日本語講師のボランティアに目覚める

それがある時、ひよんな事からポッと甦ったのです。同居している長男夫婦が家を建て替えてくれると言い、仮住まいをすることになりました。子供達は其々独立

し、独り身の私には何の縛りもありません。つまり、「どこか他所で暮らそう！」となりました。

現在は空き家となっている実家で、親戚と幼馴染に囲まれて暮らすのはどうかな。そこは辺鄙な集落で、生きていくのに問題はありませんが、車無しで半年から1年も過ごすのは、私の QOL はどうなるのだろうか。想像しても、全くときめかないのです。

その他国内外の地名が、候補として浮かんで消えていく中、第一候補として住みやすさNo1 のマレーシアの地名が浮上しました。公用語が英語であるのも魅力でした。英語は苦手ですが、他の言語よりは取り付きやすく感じていたのです。これで、行き先は決まりました、とは言え知らない国で英語を話せない私の QOL はどうなるのか。生きがい、拠り所と言った“居場所”が欲しい。そして、次に心に浮かんだのは是非とも人の中で暮らしたいという思いでした。

3. WSC の日本語ボランティアを発見する

パソコンに向かいネットを探して10日間、そして見つけました。「シニアの生きがい、“日本語ボランティア”」を発見しました。「あった！これだ！」これが WSC との出会いでした。私は日本語講師としての勉強はしていませんが、アシスタントとしてならいけるのではないかと、単純に思いました。

そして KK (コタキナバル) ボランティアの担当、高橋様との面談に臨みました。ところが、アシスタントの口は無くなっている事を知りました。高橋様は穏やかな笑顔で、「教え方の手引きと言う指導書があるんです。その通りにやればいいんです。他にも必要な資料が全部揃っていますよ」と、楽しそうにおっしゃいました。このポジティブな牽引に勢い付いた私は、嬉々として KK へ向かったのです。

4. なぜ日本語ボランティアだったのか

なぜ日本語ボランティアだったのかと振り返ると、こうなります。

- ・元々国語と言う教科が好きだった
- ・土地の人に交じって暮らしたい
- ・人の役に立ちたい



マレーシアの夕日



KK は大都会

当初、知らない土地でのアウェーな暮らしの中で、自分はどうやって異文化を受け入れ馴染んでいくのか、好奇心と不安が入り混じっていました。

マリナコート
のオーナー、氏原
夫妻はホスピタリ
ティに溢れ、なに
かあると直ぐに駆
け付けて下さいま
す。ささいな心配



氏原夫人ティナさんのお誕生会

事でも、さり気なく解決して下さいます。JCTICの文先生は、多忙な日々の時間を割いてご飯に誘って下さいました。ありのままのお付き合いの中で、「入澤先生は大丈夫です」と、いつも声かけて頂きました。こうして私は全面的に守られ、居心地よく JCTIC で過ごしたのです。

5. ボランティアを満喫しました

世の中はいろいろです。綿密な準備をしてから事に臨む人もいれば、興味を持つ世界に即飛び込む人もいます。今後のことですが、私のように未経験の方が入

会される場合、事前にレクチャーを受ける事ができたらいいなと思います。教案というものを知り、具体的に授業の練習



KKの日本語コンテスト

をしておくことは大きな助けになるはずで

す。また、マリナコートで一緒した先輩方には何かにつけて丁寧に教えて頂き、これも大きな助けとなりました。

さらに私を奮い立たせたのは、JCTICの生徒さん達です。レッスン中、食い入るようにこちらを見る綺麗な目、熱い眼差しにハッとします。前回の滞在で9課を教えた生徒さんが、今回の滞在中には日本語スピーチコンテストに出場しました。もちろん、私も一生懸命お手伝いさせていただきました。

私のKKでの生活の時間割は、JCTICのレッスンが週に2日～3日、その他週2回のテニス、週2回の英会話で、苦しんだり楽しんだりの日々でした。が、一言で言えば大変満喫しました。肝心の日本語講師としてどうだったか・・・良い勉強をさせて頂いております。ありがとうございました。

季刊誌（会報）原稿募集

WSCでは、年2回（6月&12月）季刊誌を発行し、会員の方に旅行に関する情報をお届けしております。

下記のご投稿をお待ちしております。

「表紙の写真」

「TAKE OFF」

「わたしの旅」

「地区懇・同好会」
よりの連絡事項

会報へのご要望・他

応募先

投稿方法に基づき編集委員 布施弘光宛

e-Mail : fusedesk@yahoo.co.jp

編集委員会